



## 裸で育て君らしく

園長 志賀 教子

2026年度より園長に就任しました志賀教子です。どうぞよろしくお願いいたします。

在園の皆さんとは顔なじみですが、改めて自己紹介をさせていただきます。3人家族で夫と21歳の息子がいます。現在は岸和田の旧市に住んでいますが、生まれは貝塚市で結婚当初は熊取町の西小学校の近くに住んでいました。

私の名前は教える子と書いてのり子と読みます。人に教えられる子になって欲しいという親の願いをこめてつけてもらった名前ですが、改めてこう思い出してみると、私の保育士としての歩みも、人生の歩みも、まさにたくさんの人たちに教えてもらうことや気づかせてもらうことの連続だったなと思います。

アトムとの出会いは19歳の秋です。無認可時代のアトム共同保育所に就職したのはいいのですが、保育のことはもちろん、赤ちゃんを抱っこしたこともミルクをつくった経験もありませんでした。もっと言えば、社会人としての常識やモラルさえも兼ね備わっていなかった私に、丁寧に、かつ厳しく温かく、保育士としての土台も、人としての土台も教えてくれたのは、当時のアトムの先輩や保護者たちであることは間違いありません。

もうひとつ、育てられたということで忘れられないのは、2003年『NHKスペシャル～裸で育て君らしく』というドキュメンタリーで、自分の保育が全国で紹介された経験です。5歳児ぞう組の担任長谷ちゃんとしての一年間の奮闘（葛藤も未熟さも含めて）の映像の放映後は、全国から私の想像を超える反響がありました。それによって、外から見たアトムの保育実践への激励だけでなく様々な客観的な意見が届いたことは、私にとっては、自分の仕事を始めて客観的に考えることにつながる大きな学びとなりました。取材で出会った方々との出会い、全国の保育関係者や保護者からの感想、アトムを支え応援してくれている全国の教育関係者の方の激励の言葉等も含め、小さな無認可の保育所で自分がしている仕事が、実は社会にとってどれほど大きな意味があったのかと、驚きと共に気づかされることにもなりました。

その後、出産と同時にアトムを退職し、夫の実家近くの岸和田に引っ越しましたが、改めて保育士資格を取得するため36歳で学生になりました。そして、退職して7年後に同じアトムに再就職。子育てをしながら今まで保育士として日々奮闘してきました。

保育士としての気づきや学びは、ベテランと言われるようになった今でも、毎年、日々にあります。昨年度の3月に、卒園した5歳児みかん組の最後の懇談会での出来事もそうです。最後の一年をふりかえる会だったのですが、笑ったり、泣いたりしながら徐々に正直な心境を語る保護者の話を聞きながら、こんなふうに丸裸な心の声を他人同士が語れる関係性が、5年、6年の年月を一緒に重ねることのできるんだな。アトムの懇談会はやっぱりいいな素敵だなと涙が止まらなかったのですが、その最後にひとりのお父さんが笑顔で言ってくれたひとことに、改めてハッとさせられました。

「みんな、自分の子育てがダメだったとか反省ばかりしてるけど、自分は子どもが保育園から無事に家に帰ってくるだけで100点だと思ってきた。今日保育園楽しかったと子どもから聞いたら110点で、明日また行きたいなんて言ってくれたら120点だと思う。子どもができて親になったって、子育ては初めてだからわからなくて当たり前。悩んで解決することは悩めばいいが、どうしようもないことでは、悩まなかった自分です。みんな違う。みんないろいろでいいじゃないですか」

アトムで出会う親たち、若い保育士たちの口から、周りからどう思われるのだろう、自分に自信がないと聞くことが年々、多くなっているように感じています。個性を大事にと言いながら、意見が違えば一斉に攻撃的になるような社会の中で、大人も子どもも他人の評価を気にして生きづらさを抱えていると感じることもとても多いです。でも、そんな時代だからこそ、アトムの園長として再スタートするこの4月、はじめましての挨拶に、このお父さんの言葉を借りて「子育ては初めてだからわからなくて当たり前。みんな違う。みんないろいろでいい」という言葉を皆さんに伝えるところからもう一度始めたい。そう思っています。

今年度は、新入園児17名を迎え、127名の子ども達と職員44名でスタートです。

みんな違って、みんないい！ 裸で育て、君らしく！